

## 医学部：保健学科（検査技術科学専攻）

### 【卒業要件：124単位】

1. 全学教育科目は、卒業要件として（イ）～（ホ）に従い、32単位以上を修得する。

（イ）教養教育科目は、以下の条件に従い、10単位以上を修得する。

コア教養科目の「人間と文化」、「文芸と人間」、「歴史の認識」の中から1科目2単位以上、

コア教養科目の「異文化の理解」、「現代の政治と法」、「現代の社会と経済」の中から1科目2単位以上、

コア教養科目の「地球と生命」、「数理と情報」、「物質の世界」の中から1科目2単位以上を修得する。

なお、コア教養科目の「医療と福祉」、「芸術とテクノロジー」については、1科目2単位に限り、コア教養科目のうちの不足する区分の単位とすることができる。

また、個別教養科目の中から4単位以上を修得する。

個別教養科目として次の科目が病院地区で開講される。

「医療の歴史」、「医療統計学」、「家族論」、「保健福祉概論」、「介護福祉論」、「健康管理論」、

「チーム医療」、「健康教育論」、「カウンセリング論」

（ロ）言語文化科目Ⅰでは、第1外国語（英語）6単位以上、第2外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語のうちから1カ国語）4単位以上を修得する。

言語文化科目Ⅰの英語科目として、「医用英会話」、「医用外国語学」が2年次以降に病院地区で開講される。

（ハ）健康・スポーツ科学科目Ⅰでは、「健康・スポーツ科学講義」、「健康・スポーツ科学実習」を修得する。

（ニ）基礎科学科目Ⅰでは、必修科目8単位を修得する。

（ホ）情報処理科目Ⅰでは、「情報処理基礎演習」を修得する。

2. 専攻教育科目では、卒業要件として低年次専攻教育科目を含めて82単位を修得する。

3. 医学部保健学科検査技術科学専攻の卒業要件として、上記1及び2の卒業要件の外に、総合選択履修方式により10単位以上を修得する。

なお、上記10単位のうち4単位以上は3年次以降で修得することが望ましい。

また、基礎科学科目Ⅰの中で次の科目から、2科目4単位以上を履修することが望ましい。

「微分積分概要」、「電磁気学基礎」、「基礎化学結合論」、「集団生物学」

## 履修細目一覧（ 医学部：保健学科〔 検査技術科学専攻 〕 ）

区分	授業科目	最低修得単位数			受講 キャンパス	
		科目区分毎の 単位数	総合選択 履修方式	合計		
全 学 科 目	教 養 教 育 科 目 コ ア 教 養 科 目	人間と文化(2) 文芸と人間(2) 歴史の認識(2) 異文化の理解(2)	医療と福祉(2) 芸術とテクノロジー(2) ※1	2単位	6単位	六本松
		現代の政治と法(2) 現代の社会と経済(2) 地球と生命(2) 数理と情報(2) 物質の世界(2)		2単位		
				2単位		
	個別教養科目	六本松, 箱崎, 病院, 大橋, 元岡キャンパスで 開講する科目 ※2		4単位		六本松 箱崎 病院 大橋 元岡
	言語文化科目Ⅰ ※3	第1外国語 第2外国語		6単位 4単位	10単位 ※4	124単位
	健康・スポーツ科学科目Ⅰ	健康・スポーツ科学講義(2) 健康・スポーツ科学実習(1)		2単位 1単位		
	基礎科学科目Ⅰ	【必修科目】 線形代数概要(2), 力学基礎(2), 基礎有機化学(2), 細胞生物学(2)		8単位		
		次の科目の中から, 2科目4単位以上を履修することが望ましい。 微分積分概要(2), 電磁気学基礎(2), 基礎化学結合論(2), 集団生物学(2)				
	情報処理科目Ⅰ	情報処理基礎演習(1)		1単位		
	言語文化科目Ⅱ					
健康・スポーツ科学科目Ⅱ						
基礎科学科目Ⅱ						
情報処理科目Ⅱ						
外国語コミュニケーション科目						
専攻 教育 科目	他専攻の専攻教育科目 低年次 (第1学期) (第2学期) 第3学期以降	「医学部保健学科シラバス・学生案内」を参照すること。 「医学部保健学科シラバス・学生案内」を参照すること。		82単位	病院	

※1 「医療と福祉」, 「芸術とテクノロジー」については, 1科目2単位に限り, コア教養科目のうちの不足する区分の単位とすることができる。

※2 個別教養科目として次の科目が病院地区で開講される。  
「医療の歴史」(2), 「医療統計学」(2), 「家族論」(2), 「保健福祉概論」(2), 「介護福祉論」(2), 「健康管理論」(2), 「チーム医療」(1), 「健康教育論」(2), 「カウンセリング論」(1)

※3 言語文化科目Ⅰの英語科目として, 「医用英会話」(1), 「医用外国語学」(1)が2年次以降に病院地区で開講される。

※4 総合選択履修方式の10単位には, 科目区分毎の最低修得単位数分として履修した科目を除いて履修すること。  
なお, このうち4単位以上は3年次以降に履修することが望ましい。